



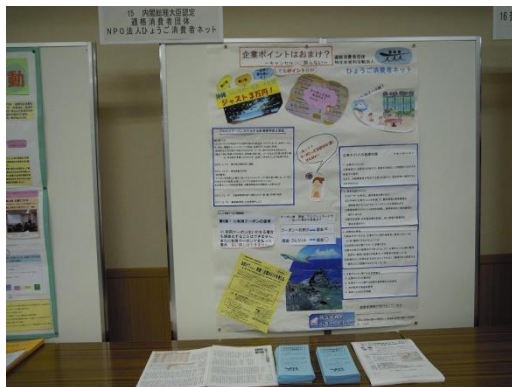
NPO 法人ひょうご消費者ネット・メルマガ

NO.2 2012.4.3

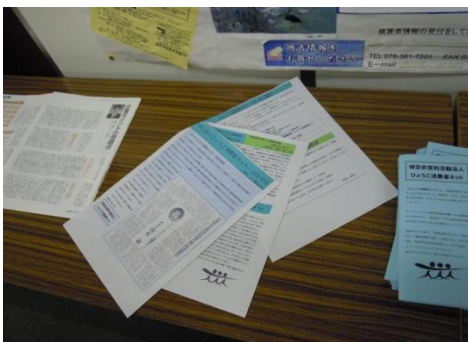
「2011 年度地方消費者グループ・フォーラム」参加報告



壁新聞交流会 風景



壁新聞「企業ポイントはおまけ？」



リーフレット、メルマガ、セミナーパンフレット

2月7日（火）大阪コロナホテルで開催された地方消費者グループ・フォーラムに参加し、壁新聞交流会ではひょうご消費者ネットの活動を紹介しました。

壁新聞では、現在上告申し立て中のジャルツアーズに対する不当条項使用差し止め訴訟について、企業ポイントの問題点と訴訟の現状をお知らせしましたが、この問題が皆さんにあまり認知されていないことを知り、改めてPR不足を実感しました。また、リーフレットやメルマガジン、ひょうご消費者セミナー2011のパンフレットなどでひょうご消費者ネットの活動をPRしてきました。

また全体会では消費者庁、自治体、消費者団体からの報告があり、分科会でも消費者行政、高齢者見守り、消費者教育をテーマに発表と意見交換の場がありました。消費者教育の分科会では当団体の大森節子さんが司会を、また酒井富美子さんが高校の総合学習で9年にわたる継続的な消費者教育の講座を実施されたC・キッズの取り組みを報告されました。大学生協の取り組みも含め、若い世代への継続的な消費者教育の大切さを感じたフォーラムでした。

(前田)

特定非営利活動法人
ひょうご消費者ネット



「ひょうご消費者セミナー2011」 に参加して

金 英美子

「ひょうご消費者セミナー」が兵庫県農業共済会館で開催されました。兵庫県情報セキュリティサポーターの篠原嘉一さんの講演「携帯・ゲーム機・インターネットに潜む危険について」に興味を持ち、参加しました。インターネットは公共の場で、書き込みをすれば10万人の目に触れる。ネットの入り口はゲーム機。大人が知らない間に子どもはネットを通して被害に巻き込まれていく。その被害は高校生になってからで、「脅迫・恐喝被害」「性犯罪」「薬物犯罪」と私たちが想像しているよりも深刻なものでした。子どもたちのネット環境を理解した上で、出来るだけ早い時期から親子間の話題として、家庭教育が必要であることがわかりました。寸劇は消費者被害の実例をあげ、とてもわかりやすく、よかったです。集団的消費者被害救済制度については、今後の課題を解決しないと、救済制度として有効に活用していくことが難しいと思いました。

行ってきました！

兵庫県食肉衛生検査センター

荒井 京子

今回は20名の参加で食の安全性への関心の高さがうかがえました。

食肉衛生検査センターに隣接する加古川食肉センターが昨年10月、県下で初めてマカオの検疫規格の認定を受け、「神戸ビーフ」が初めて輸出されました。さすがに、検査体制や衛生管理、環境対策も徹底され、食肉処理のほぼ全工程の検査・作業も上階から見学できる施設でした。また、牛肉の放射性物質検査についての質問に対し、県内では汚染された稲わらを使用していないこと、個体識別番号により異動履歴等で検査が必要か把握できる等、丁寧に回答下さり、納得できました。

改めて安全性を判断できる正確な情報の公開が、風評被害を防ぎ、信頼を得る手だてではと感じました。



リレーメッセージ

「暮らしの見なおし」

司馬 麻里

昨年夏は近年にない省エネ運動が高まりました。

私も活動仲間と一緒に省エネだけでなく、いろんな学習の企画や提案などをしました。

世代間で関心事が異なりますが、もっとも参加者の関心があるのは、「食」です。

安心安全な食生活をおくるのがすべての国民の願いですが、昨年の東日本大地震の津波による福島原発事故で、食の安全の基盤が大きく崩れかけ、すべての国民がエネルギー問題を身近に考えるようになりました。しかし、今までの便利な暮らしは捨てがたく、今こそ暮らしの見なおしがたいせつであるにもかかわらず、なかなか「暮らしかた」を大きく変えるのは難しいようです。

そんな中、いまこそ「暮らしのみなおし」を考える「学習会」を開催したいと思います。未来に向けこれからの暮らしを考えるリーダー30歳～40歳世代の参加率を考えると、なかなか頭の痛いところです。

ぜひ、どなたかすばらしいアイデアをお聞かせください～！

リレーメッセージ次回は小池 薫さま